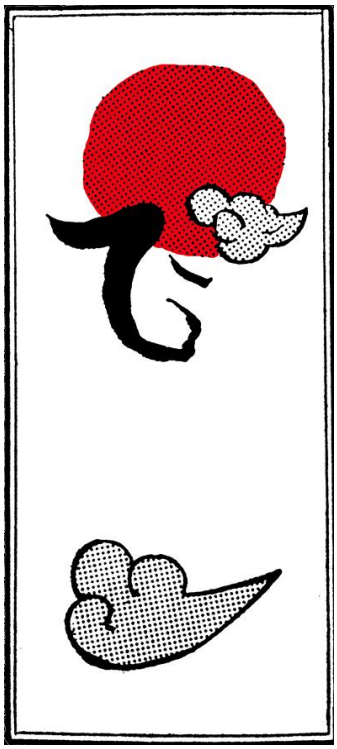

第42号
月1回発行
ひの心を継ぐ会
〒799-1336
住所：愛媛県西条市
上市甲720-1
TEL：080-2986-0856

領綱

一　私達は明徳を明らかにします
一　私達は国家の鎮護となります
一　私達は大和世界を建設します

神道（十三）（大和世界の建設）

竹葉 秀雄

古事記

神秘的方法(1)

前に述べた如く、反省的思惟の比量知、分別知が絶対を捉え得るものでなく相対の圏内に彷徨するものであるのに鑑みて、反省の分別対立を否定し、自己に対する相対としての外界に向う肉眼を閉じ、それを思惟する分別知を杜絶して、心の内奥に自己を顕現する絶対との冥合を体験する神秘的直感 mystischeSchau を哲学となすものが、神秘主義 Mystik であり、其方法が神秘的方法 mystische Methode である。神秘主義者を意味する原語が閉じるの語から出たのも、其意を示すであろう。（閉じる方法は印度支那の行者に多く見るところである。竹葉）それが宗教的要求を満たす哲学の形態として重要なるのみならず、哲学が反省の立場に偏し抽象的思惟が絶対の把握から遠ざかる場合に、之を哲学本来の使命たる絶対の立場に覚醒せしめ、真に哲学としての生命を呼起するものは常に神秘主義なのである。如何なる時代にも学的、論理的なる哲学の底潮として神秘主義は存した。併し殊に、論理的、学的なる哲学が既に其組織力を以てしては現実の乖離分裂を統一することが出来なくなった様な場合に、此底潮は表面にまで現れ、人は神秘主義に趨くことが多い。現代に於ける神秘主義的傾向の台頭も其実例というべきであろう。

その台頭と言われるものは、無の西田哲学、実存哲学、生の哲学、意志の田辺哲学などである。

斯くて神秘主義は一方に於て学的な哲学に生命を吹込む哲学精神の源泉であると同時に、それ自身論理を摂取し学的形態に組織せられる場合には、本来の学的なる哲学に代り、後者の不満足を除かんとする哲学体系となる。斯かる神秘主義の哲学体系として西洋哲学史上に代表的なる位置を占めるのは希蝋哲学の末期に現れたプロティノス（Plotinos 204-269）の哲学である。西洋の神秘主義は凡てプロティノスの新プラトン哲学の影響の下に立つというも過言でない程大なる影響を及ぼした。

プロティノスの哲学はそれが新プラトン主義と呼ばれる通りプラトン哲学の復興たる意味を有する。プラトン哲学に拠れば、感覚的認識に現れる所の生滅変化する個物は真に存在するものではない。それは仮象に止まる、真に存在するものは唯理性に由って把握せられる普遍恒常のイデヤでなければならぬ。個物はイデヤを分有する限りに於て存在するといわれるのである。然るにイデヤもそれの普遍の度に従って種々の段階を形造る。其最高のイデヤが所謂善のイデヤと呼ばれるイデヤ性自体である。イデヤをして其含む特殊の部分の調和的なる統一たらしめるイデヤ性の原理が善のイデヤに外ならない。斯くてプラトンに於ては調和的統一の理性的原理たる、真と美と合一せる善のイデヤを根拠として、それに由り普遍恒常の美しき形姿に統一せらるるイデヤが真の実在を形造るのである。それは感覚的認識に於て捉えられず、比量的思惟によって概念化せられず、ただ美しき個物を機縁として理性の直観に由り直観せられるのである。田辺氏の通論はプラトンについて以上の如きであるので今少し附加しておく。

プラトン Platon 427-347B.C.は古代最大の観念論哲学者でアカデメイアの創設者である。アテナイの貴族、若き頃からソクラテスの門に入り、その教とその

死から深い感銘を受け、またピュタゴラス派の数学やその霊魂観に強い関心をもち、ソフィストたちの相対主義やデモクリトスその他の唯物論と対決しつつ、ソクラテスの教えた「霊魂の気づかい」の哲学とそのための諸徳の「何であるか」（本質概念）を問い求めた「問答法（概念問答）」を継承し発展させた。それは形而上学的に固定し完結した体系というよりも、むしろ弁証法的に晩年まで絶えず真実を求めて動揺している点で、ソクラテスの批判的精神を継いだものとみられるが、大体に於ては超感覚的、理性的な一般者（普遍概念）の実在性と超越性を主張するイデヤの説を基調とする霊肉二元論的な観念論哲学である。この哲学は、彼の書いた自然学から認識論、国家論、神学にわたる多数の傑作が完全に後世に伝わったことや、その後継者に有力な哲学者アリストテレスやプロティノスを得たことなどによって、その後の殆どの学問や思想に、功罪相半ばする深い影響を与えてきた。ここで「イデヤ」について今少し詳しく見ることとする。イデヤはプラトン的哲学の最たるものとされているのであるが、これが実は、その壮年期の「ファイドン」でもまた晩年の「ティマイオス」でも、話者ソクラテスによって持ち出され、しかもそれが話者自らの説ではなくて、ピュタゴラス派のものであるかのようにも語られているので、それを直ちにプラトンの説とするわけにはゆかない。プラトンの諸対話編ではイデヤ idea はまたエイドス eidos ともいわれ、両語はほとんど同義的に用いているが、どちらも「見る」「知る」の意の動詞と同根の名詞で、一般には見られ表象（知覚）されている物の形・姿・型の意に用いられていた。そしてこれらがとくに肉の目（感官知覚）と区別された霊の目（理性の直観、思考）で直観され思考される普遍的なもの（その意味での形相、種類、普遍概念）をさす語として用いられだしたのは、おそらくピュタゴラス派の数学者や諸徳の「そもそも何であるか」を問うソクラテスからのことである。数学者は、その肉の目では砂上に描かれた不完全な種々特殊の三角形を見ながら、霊魂の目では別の全く正確な三角形それ自体（三角のイデヤ）を思考し研究している。ソクラテスはこのような思惟にたって、正しくあるとか、美しくあるとか言われ述語されるあれこれの経験的事例について、それらがそういわれ述語されるところのその正義、その美とは何であるかを問い求められている正義自体、美自体を、正義のイデヤ、美のイデヤと呼んだ。これだけで見ると、ここに個々の諸事物と区別されてそれ自体とかイデヤとか呼ばれたものは、今日の論理学用語では個物に対する「種」「類」あるいは特殊に対する「普遍」あるいは多くの主語に共通の「述語」のこと、即ち一般に「概念」ともいわれるものである。この様な普遍的なものを表わす概念が今しも彼等によって思想史上初めて自覚されたのである。

農士道

第四章 士道論
～第四節 士たるの生活～

菅原 兵治

精一、抱一

私共が真剣に人生を生き抜こうとするならば、確くこの「一」を執らねばならぬ。志操を堅くせねばならぬ。「惟れ精、惟れ一」して允に厥の中を執らねばならぬ。老子にも「聖人一を抱いて天下の式となる」と言うてあるが、私共は真剣に「執一」し、「抱一」するの生活をせねばならぬ。近代の倫理説の多くは、人格の実現には真善美聖健富寿名位貨……すべて無くてはならぬということをいうが、然し浮世はままならぬもの、かかる考えよりすれば寧ろ人生は「永遠に満たされざる欲望の連続―ショペンハウエル―」である。私共は「多」なる欲求を次々と求め廻って多岐亡羊の生活に喘ぎ、結局は何ものをも得ずして酔生夢死するよりは、希くば「予万死すと雖も、豈汝と離るるに忍びんや」という―「一」を確く抱いて、其の「志」に一切を捧げ尽して行こうという生活こそ感激ある人生ではないか。私共が「志」の為に一切を捧げ尽して殉ずる―其処に始めて不壊の金剛力は生じて来る。百尺竿頭一歩を進めて、双手空拳奮然大虚空に跳下りる時、其処に始めて今までは知り得ざりし新天地が開けるのである。我が「志」のためには、我が「命」の一切を挺して驀直去する処にこそ、始めて随処作主の安立が得られるのである。真個永遠の生命に生きられるのである。斯くて「武士道ということは、即ち死ぬことと見つけたり」という葉隠（佐賀藩に伝われる武士道の書）の教に、いつもながら私共は粛然として襟を正さしめられるものがある。「志」の為には何時にても死を辞せぬ―其の志操の下に、其の没我の下に、其の不惜身命の精進の下に、始めて弘毅にして自由なる「士」の溌剌たる生活が生じて来るのである。

過去と未来

三浦 夏南

日記をつけると良いという話はよく聞くことだが、これには一体どういう意味があるのかということを考えてみるに、過去と現在を比べて、「足るを知る」ことが出来るということが一番の効用ではないかと思う。過去の自分と今の自分を比べると、少しずつではあるが、進歩してきていることを知ることが出来る。昨日よりも今日がよりよくなっているという実感は、今日よりも明日がよくなるという希望へとつながる。この希望を持つことが出来れば、人生は楽しくなる。しかし人間は、これまでの過去を振り返るよりも、未来ばかりを追ってしまう。未来は常に高く美しいものである。これは一見良いことのように思えるが、美しい未来の自分、なるべき理想の自分に比して、現実があまりにもちっぽけに見えてしまうことも少なくない。これは未来の自分に対する現実の自分の不足を感ずることに繋がり、焦りを生んでしまう。考えて見れば、現代の世の中というのは未来の為に現実を浪費することがあまりにも当然の世の中になっている。これは表面的には進歩的に見えるけれども、実際には現実への集中を失い、理想の未来への歩みは却って遅いものとなってしまうだろう。人が現実に集中し、質の高い今を生きる為には過去を省みて感謝するということが必須である。現在の自分に至れたことの有り難さ、不可思議さをこれまで歩んで来た自らの道のりに対して忘れてしまうのは、忘恩であり、不遜である。この心がある限り大切な現在に没頭することは出来ないし、理想の未来に近づくこともできない。志、目標を立てることは出来るが、未来が如何に展開するかは神のみぞ知る、人間には不可知な領域である。その不可知な領域に対して、心配することは思っている以上に害のあることである、シナに「法を行いて以て命を待つ」という言葉がある。法とは天理であり、人の守るべき道である。それを行って後は天命を待つばかりで、それが成功するのか失敗するのかは我々人が考えるべきではないという意味であろう。心静かに待つという態度は敬虔な人間でなければなかなか出来ないことである。凡夫は過去の恩を忘れて、未来の利ばかりを妄想するものである。過去に向かわない心は必ず未来に向かってしまうものである。我々は意識して過去の事を思い出し、大切な日々に感謝を捧げるべきである。

ミクロな話で言えば、草取りの時にこのことを実感することが出来る。草を引いて来たこれまでを振り返ると美しくなった畑に心は喜ぶが、まだ草の取れていない前方を見ると、その前途の険しさに意欲がそがれてしまう時がある。自然農を習っていたころに決して時間や先の作業の行程を頭に描いてはならないと教わったが、まさに真理である。未来を敢えて見ぬということは逃避のように一見すると見えるけれども、現在に集中するための大切な心得であり、現在への集中の積み重ねが未来を築き上げていることを考えるとこれこそ真に未来を考えることであろう。

とよくも農園だより

三浦 美恵

畑の隅っこで真っ赤に咲いた彼岸花が、秋の訪れを教えてくれているようです。例年より早くから過ごしやすい気候となり、いよいよ里芋の収穫も始まりました。試しに掘ってみると割れや腐りも無く、立派な里芋が出てきました。初収穫した里芋は、早速芋炊きにして家族でおいしく頂きました。今年も、秋冬の我が家の定番メニューになりそうです。

アスパラガスは気温の低下とともに収穫量も落ち、先月の半分以下になっています。一日二回していた収穫も朝の一回のみとなりました。春から秋にかけて長期間収穫できるアスパラガスですが、唯一冬だけは土の中でお休みし、来期に向けての力を蓄える時期です。収穫から防除や土づくりに比重を移し、来年以降のアスパラガスを育てることに力を入れていきたいです。

ネギは猛暑や長雨といった夏の急激な気候の変化に耐えきれず、病気になるものも出てきました。雨上がりには側面のマルチをカッターで切って湿度を下げたり、石灰を撒いて土壌消毒を行ったりして、これ以上被害が拡大しないよう手を打ちました。一般的に一年のうちで最もネギの栽培が難しいといわれている夏ですが、来年にはネギが暑さにやられにくいよう、マルチの色・種類、定植位置、定植時間、水やり方法を工夫して、今年以上に良いネギが収穫できるようにしたいです。

また、今月は台風の影響で収穫間近のネギ四十キャリー分が倒されてしまいました。台風の間は倉庫で里芋の根をちぎる作業をしようと、前日に里芋六十キャ

リー分を持ち帰っていたため、台風の翌日は里芋とネギ両方の作業に追われることになってしまいました。とても自分達だけでは手に負えないと思い、出勤予定ではなかったアルバイトの方や親戚に連絡を取ると、急な誘いにも関わらず八人の方が手伝いに来てくださりました。大勢で作業をすると、倉庫に山積みになっていたキャリーがみるみるうちに減っていき、あっという間に出荷調整が終わりました。農業は、今回のように大勢でするとあっという間で、雑談をしながら楽しくできます。昔から田植えや収穫時期には、親戚同士が声を掛け合い、お互いの手伝いをしていたそうです。私達も、農業を始めた当初は二人でしたが、今では主人、長男、義弟、私の四人で一緒にしています。まだ幼いため普段農作業はできない甥や次男も、天気のいい日には義妹が畑に連れていき、できるだけ時間を共にしています。今までは農業で生計を立てて、家族全員が就農する事を目標にしてきましたが、就農した三年前と比較すると大きく前進しました。今後はさらに自給自足を進めていけるよう、来年からは手始めに米の栽培を予定しています。そして最終的には調味料を自らの手で作ったり、家畜を飼ったり、蚕を育てたりしたいと考えています。理想は遠大ですが、まずは目前のことを着実に行い、一歩ずつ進んでいきたいと思います。今日も張り切って、朝からアスパラガスの収穫に向かいます。

★今後の予定

先月に引き続き個別での勉強会の対応をさせて頂いています。ご希望の方は事務局までお電話ください。

★一燈照偶　万燈照国

ひの心を継ぐ会は竹葉秀雄・近藤美佐子両先生の精神を継承し、発展させることを目的として生まれた会です。一人の「ひ」の精神が周囲の人々の心に「ひ」を燈し、やがてそれが国を照らす「ひ」になることを願い、活動を行っております。皆様には何卒ご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

★年会費

一般会員	三千円
賛助会員	一万円
特別賛助会員	三万円
支援会員	一万円

★振込先

「ひの心を継ぐ会」
愛媛銀行・本町支店・普通預金
口座番号　６－４２７３５